

# 大台突破！ 中泊メバル膳が9万食突破

高級魚メバルの水揚げ量県ナンバーワンを誇る当町の新・ご当地グルメ「中泊メバルの刺身と煮つけ膳」が提供から6年を経て、8月11日(水)に累計販売食数9万食を達成しました。

9万食目を注文したのは、はくちょう亭奈良屋を訪れた谷祐樹さん(八戸市)の一家3人で、町長から感謝状と記念品が贈られました。

谷さんは「中里で働いていたときに食べたことがあり、久しぶりに食べに来たらいい節目に当たった。1食でさまざまなメバル料理を味わえておいしかった」と喜びの声をあげていました。

町長は「年に1.5万食のペースで売れているのは地域グルメとしてはすごいことだと思う。このペースで10万食を達成したい」と期待していました。



## ともに支え合うまちの火

宮越家離れ庭園で  
パラリンピック聖火採火式



東京パラリンピック聖火採火式と聖火ビジットが8月15日(日)に行われ、町長や町スポーツ協会の坂田峰之会長、宮越家12代目当主の宮越寛さん、町議員など約20人が参加しました。

採火式は、宮越家離れ庭園で行われ、坂田会長が大正時代から同家に伝わるオイルライターで町長が持つたいまつに採火をした後、たいまつからかがり火に、かがり火から

ランタンに移されました。

町長は「県初の五輪選手である井沼清七さんと関係があるこの家で採火式をやることのできたのは非常に感慨深い。この聖火が町民一人一人の心の火となり、幸せに結びついてほしい」と話していました。

採火式後には、聖火を持って内潟療護園を訪れました。園長の野上一幸さんは「パラリンピックを通じ、障がい者が過ごしやすい社会になってほしい」と社会への願いを述べていました。

この聖火は、同日に三内丸山遺跡(青森市)で県内各地の聖火とともに集火され、開催地である東京に運ばれました。

